

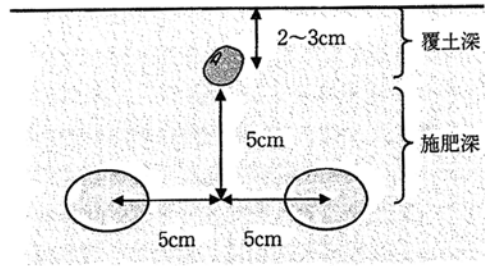
<大豆の春の栽培管理のポイント>

1 は種期等

- ① 5月中旬後半～下旬(地温が10℃以上になってから)
- ② 土壌pHは6.0を目標に合わせましょう。

2 品種とは種量・栽植密度

- ① ユキシズカ (33,333 本/10a)
畦幅 66cm × 株間 4.5cm 1粒播種 は種量 5.0kg/10a
- ② スズマルR (25,000 本/10a)
畦幅 66cm × 株間 6.0cm 1粒播種 は種量 4.0kg/10a
- ③ とよまどか(12,500 株/10a)
畦幅 66cm × 株間 12.5cm 2粒播種 は種量 8.5kg/10a



試運転を行い肥料や薬剤の施肥位置、覆土深を確認する

3 種子消毒と根粒菌

ピシウム菌属等による腐敗軽減、タネバエ食害による出芽不良対策、ジャガイモヒゲナガアブラムシが媒介するウイルス病対策として、種子消毒(塗沫)を必ず行いましょう。

根粒菌(まめぞう)は種子消毒終了後に接種します。

| 名称 | 使用時期 | 乾燥種子 1kg 当り 原液使用量 | 使用回数 | 対象病害虫名 |
|--------------|------|----------------------|------|---|
| キヒゲンR2 フロアブル | 播種前 | 20mL | 1 | タネバエ、苗立枯病、紫斑病 |
| クルーザー-FS30 | | 6mL | | タネバエ、アブラムシ類、ネリムシ類 |
| クルーザー-MAXX | | 8mL | | ハト、タネバエ、アブラムシ類、ネリムシ類、苗立枯病(ピシウム菌)、リゾクトニア根腐病、茎疫病、黒根腐病、紫斑病 |

4 施肥

①基肥

| 土壌区分 | 基準収量 (kg/10a) | 施肥標準(kg/10a) | | | 施肥例 |
|------|-------------------|--------------|-----|----|--|
| | | 窒素 | リン酸 | 加里 | |
| 低地土 | 240~320 kg/10a | 1.5~2.0 | 11 | 8 | HK4号-50~70kg/10a 初期生育確保が困難な地域では リン酸 5kg/10a 程度を増肥する。 |
| 台地土 | | | 12 | | |
| 泥炭土 | | | 12 | | |

②追肥

生育後半に根粒菌の活性が劣るほ場では、開花始頃に追肥します。

- 1) 根粒着生が 10 個未満→窒素 10kg/10a
- 2) " 10 個以上あるが葉色が黄化→窒素 5kg/10a

4 播種深度

土壌水分が潤沢な場合は2~3cmとし、覆土を厚くしない。
土壌水分が少ない場合には播種深度を4~5cmとし、覆土後鎮圧を行います。

5 病虫害防除(アブラムシ類)

クルーザーの残効は約1ヶ月である。は種1ヶ月後には茎葉散布による防除を実施する。

6 中耕除草

中耕は初期に広く浅く、後期に狭く深くします。除草剤の残効を考え、発芽10~15日頃からは、着蕾期までには終了しましょう。

7 除草剤(土壌処理)

| 除草剤名 | 対象雑草名 | 使用時期 | 処理方法 | 10a 当り 使用量 | 使用回数 |
|-------------|--------------------------|---------------|--------|---------------|------|
| フィールドスターP乳剤 | 一年生雑草(アサギ科・アブラナ科・タデ科を除く) | は種後出芽前(雑草発生前) | 全面土壌散布 | 75~120mL | 1 |
| フルイオWDG | 一年生広葉雑草 | | | 5~10g | |
| ロックス | 一年生雑草(広葉雑草) | | | 100~200g | |